

「日々の理科」(第 2300 号) 2020, 10, 29

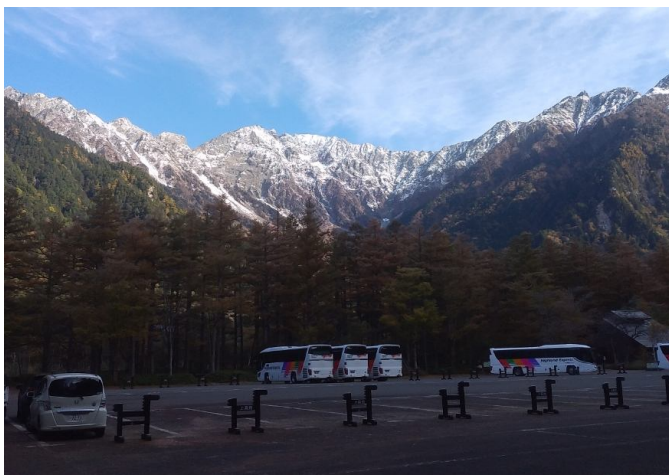
## 「晩秋の上高地紀行 (5)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

この日は寒かったが、上高地はほぼ快晴。空高く巻雲(上層雲)がわずかに架かっているだけだった。しかも、数日前の雪で、穂高連峰は初冠雪を迎えていた。



上高地バスターミナル(唯一の駐車場)からも、穂高連峰がよく見える。バスやタクシーを降りた観光客は、眼前の絶景に必ずしや歓声をあげる。私が着いたのは、まだ路線バスも着く前の早朝だったので、駐車場にはバスも車もほとんどいなかった。シーズン中の土日の日中など、駐車場に入れない観光バスで、渋滞が起きることもある。



バスターミナルから1分も歩くと、すぐに梓川(あずさがわ)の流れに突き当たる。穂高連峰の岳沢(だけさわ)、涸沢(からさわ)、槍沢(やりさわ)などの水を集めた「山の川」である。川の水は澄み切っている。これだけの水量で、本州にある川でこれだけの清流は、他に思いつかない。



### 特急「あずさ2号」(八王子駅) / C.Tanaka

「梓川」の「あずさ」は、中央本線の名門特急の愛称に、50年以上も使われて続けている。姉妹列車に「急行アルプス」があったが、現在は定期列車は消滅してしまった。かつては「上高地」という列車も存在した。



日本の山岳風景で、一般の人が行ける場所では、上高地は別格だと思う。尾瀬も別格の一つだと思うが、尾瀬は登山道を数時間歩かないと行きつけない。しかし上高地は、バスやタクシー(私の場合は自転車)を降りて、すぐにこの風景に出会うことができる。



川畔のベンチは真白になっていた。霜である。この秋、霜がおりているのを始めて見た。結晶が美しい。